

2 環境学習

県民一人ひとりが環境に関する諸問題を正しく理解し、環境に負荷をかけないライフスタイルを実現・実行することこそが環境保全にとって最も重要である。当センターでは、環境保全の実践に結びつけるため、各種講座の開催など環境学習の機会の提供を行っている。令和3年度の環境学習の取組については、以下のとおりである。

2.1 彩の国環境大学

当センターでは、平成9年度から環境科学に関する知識を持った専門的な人材を育成するため、彩の国環境大学を開講している。令和3年度も、環境に関する広範囲かつ専門的な知識の習得を目的として基礎課程、実践課程を開講した。

開講期間:8月28日～11月23日 基礎課程・実践課程 各10回 受講者:43名 修了者:28名

開講式公開講座

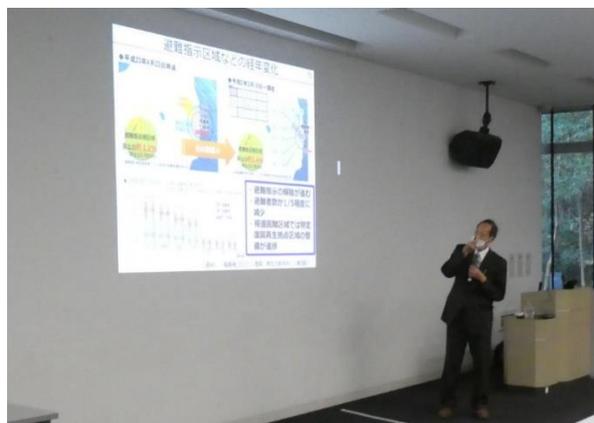
開催日	講義名	講師名
8月28日	海のない県で海を知る 海のない県で海に学ぶ	埼玉県環境科学国際センター 総長 植松 光夫

閉講式公開講座

開催日	講義名	講師名
11月23日	ふくしまの環境は今	埼玉県環境科学国際センター 研究所長 大原 利眞



開講式



閉講式公開講座

基礎課程

開催日	講義名	講師名
9月 4日	埼玉県の環境の現状と今後の目指す姿 ー環境保全・創造の取組ー	埼玉県環境部環境政策課 主任 西原 悠
9月 4日	埼玉の水環境 ーセンター開設から20年の出来事を振り返るー	埼玉県環境科学国際センター 担当部長 田中 仁志
9月11日	埼玉県の温暖化の実態とその影響 ー変わりつつある温暖化対策ー	埼玉県環境科学国際センター 専門研究員 原 政之
9月11日	埼玉県の地盤環境について	埼玉県環境科学国際センター 主任研究員 濱元 栄起

開催日	講義名	講師名
9月18日	埼玉の大気環境を知る －光化学スモッグとPM2.5のいま－	埼玉県環境科学国際センター 担当部長 佐坂 公規
9月18日	生物多様性を考える －今、埼玉県では何が起きているのか？－	埼玉県環境科学国際センター 主任研究員 米倉 哲志
9月25日	化学物質と私たちの暮らし －健康で環境にやさしい生活をおくるために－	埼玉県環境科学国際センター 担当部長 大塚 宜寿
9月25日	私たちの暮らしと廃棄物 －ごみ処理の変遷と法整備－	埼玉県環境科学国際センター 担当部長 長森 正尚
10月 2日	地球温暖化問題から考える －私たちの生活と経済－	大月市立大月短期大学 准教授 佐藤 克春
10月 2日	森林保全と気候変動問題	独立行政法人国際協力機構(JICA) JICA国際協力専門員 宮菌 浩樹

実践課程

開催日	講義名	講師名
10月 9日	環境学習プログラムをデザインする 環境学習プログラムをデザインする(演習)	学びの広場 代表 小川 達己
10月16日	環境学習から環境まちづくりへ 学びと参加をつなげひろげるコーディネーターの役割	NPO法人 エコ・コミュニケーションセンター 代表 森 良
10月23日	生物多様性とは何か 自然のしくみを知る(実地演習)	埼玉県自然学習センター 自然学習指導員チーフ 高野 徹
10月30日	事例研究 危機感が生んだ都市住民を取り込む活動手法について	NPO法人 宮代水と緑のネットワーク 代表理事 茂木 俊二
10月30日	2030SDGsカードゲーム体験	埼玉県環境部水環境課 主査 伊原 洋輔
11月 6日	SDGsと企業経営を考える 環境リテラシーを考える	認定特定非営利活動法人環境ネットワーク 埼玉 代表理事 星野 弘志

2.2 公開講座

センター施設を活用した生態園体験教室、県民実験教室を開催した。

講座名	開催日	テーマ等	参加者	
生態園体験教室 生態園における観察会や野外活動を通して身近な環境のしくみの理解や自然と生活との共生のあり方における自然環境保護意識の向上を図るため開催している。	令和3年			
	8月8日	夏休み特別企画 「間伐材で作ろう木工時計」	33名	
	9月19日	夏休み特別企画 「自然観察会 見てみよう感じてみよう 秋の生態園」	18名	
	9月20日	シルバーウィーク特別企画 「ネイチャーゲームであそぼう」	20名	
	令和3年			
	4月29日	ゴールデンウィーク特別企画 「大空へはばたけミラクルヘリコプター」	45名	
県民実験教室 簡易な科学実験やリサイクル工作を通して環境保全意識の向上を図るため開催している。	5月1日	ゴールデンウィーク特別企画 「空気とあそぼう」	18名	
	5月3日	ゴールデンウィーク特別企画 「かんたん顕微鏡でさぐる30倍の世界」	35名	
	7月22日	夏休み特別企画 「サイエンスショーどっかーん！爆発実験」	58名 オンライン	
		夏休み特別企画 「3D万華鏡をつくろう」	30名 54名	
	7月31日	夏休み特別企画 「ニョロニョロ独楽(コマ)をつくろう」	44名	
	8月4日	夏休み特別企画 「CESSゼロ係自由研究なんでも相談室」	15名	
	8月5日	夏休み特別企画 「CESSゼロ係自由研究なんでも相談室」	8名	
	8月6日	夏休み特別企画 「体験！大気汚染を目で見てみよう」	39名	
	8月7日	夏休み特別企画 「親子電気実験教室」	55名	
	8月9日	夏休み特別企画 「体験！雲の上の実験室～富士山頂の空気は何が違う？」	45名	
	8月11日	夏休み特別企画 「体験！暑いサイタマから身を守る！-科学的な暑さの対策を一緒に学ぼう」	35名	
				

講座名	開催日	テーマ等	参加者
	9月23日	シルバーウィーク特別企画 「サイエンスショー・マイナス196度の世界！」	58名 オンライン
	10月10日	リアル体験教室・県民実験教室 「環境を科学する博士になりたい」	5名 74名
	令和4年		
	3月 3日	出張サイエンスショー「化学反応！！」	36名
	3月 8日	「彩かんかん」来場100万人目記念特典 出張サイエンスショー「化学反応！！」	40名
	3月26日	県民実験教室「葉っぱで学ぶ木の不思議」	22名

(20講座、計787名)

2.3 身近な環境観察局ネットワーク

環境に関心がある県内の個人や団体に、簡易な環境調査法の学習・調査報告・情報交換の機会を設けることにより、環境保全活動の推進や観察局同士のネットワーク形成を図っている。

観察局数:108局(令和4年3月31日現在)。

身近な環境観察局では、光化学オキシダントのアサガオへの被害状況と特定外来生物の害虫であるクビアカツヤカミキリの調査を行っている。令和3年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から説明会を実施せず、郵送によるアサガオ種の配布を実施した。また、身近な環境観察局ワーキンググループ活動成果発表会は、「身近な観察局ネットワーク通信」による紙面開催とし、同時にクビアカツヤカミキリの最新防除資料の配布を実施した。

2.4 研究施設公開

県民の日に研究施設の一般公開を行った。

開催日	内容	参加者
8月 4日	夏休み特別企画 普段非公開の研究施設を特別に公開し、研究員が解説や実演を行った。	87名

※ゴールデンウィーク及び県民の日期間中の研究施設公開は新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から中止とした。

2.5 その他(再掲)

ゴールデンウィーク、夏休み、シルバーウィークに各種イベントを実施した。

イベント名	開催日	内容	備考
ゴールデンウィーク特別企画	4月29日 ～ 5月 5日	・大空へはばたけミラクルヘリコプター ・空気とあそぼう ・かんたん顕微鏡でさぐる30倍の世界	参加者延 98名
夏休み特別企画	7月17日 ～ 8月22日	・研究所公開 ・サイエンスショー「どっかーん！爆発実験」 ・光と鏡の科学－3D万華鏡をつくろう ・楽しい不思議な独楽(コマ)づくり ・間伐材でつくろう木工時計 ほか	参加者延 2,642名
シルバーウィーク特別企画	9月18日 ～ 9月23日	・自然観察会「見てみよう感じてみよう秋の生態園」 ・ネイチャーゲームで遊ぼう ・サイエンスショー「マイナス196度の世界！」	参加者延 255名

(計2,995名)